

# 2025年度入試 傾向と対策

## 数学②

### 【出題傾向】

| 入試日程 | 大問 | 小問  | 出題分野・テーマ       | 難易度 |
|------|----|-----|----------------|-----|
| 2/2  | I  | (1) | 対数の計算（数Ⅱ）      | やや易 |
|      |    | (2) | 極限（数Ⅲ）         | やや易 |
|      |    | (3) | 必要十分条件（数Ⅰ・Ⅱ）   | 標準  |
|      |    | (4) | 数列（数B・Ⅲ）       | 標準  |
|      | Ⅱ  |     | 面積・体積（数Ⅲ）      | 標準  |
|      | Ⅲ  |     | 三角比・三角関数（数Ⅰ・Ⅱ） | 標準  |
|      | Ⅳ  |     | 確率・期待値（数A・B）   | やや難 |
| 2/3  | I  | (1) | 点と直線の距離（数Ⅱ）    | やや易 |
|      |    | (2) | 極限・積分の計算（数Ⅲ）   | 標準  |
|      |    | (3) | 対数の計算（数Ⅱ）      | 標準  |
|      |    | (4) | 確率（数A）         | 標準  |
|      | Ⅱ  |     | 抽象関数（数Ⅲ）       | 標準  |
|      | Ⅲ  |     | 領域（数Ⅱ）         | 標準  |
|      | Ⅳ  |     | 四面体・回転体の体積（数Ⅲ） | やや難 |
| 2/5  | I  |     | 極限（数Ⅲ）         | 標準  |
|      | Ⅱ  |     | 三角比（数Ⅰ）        | 標準  |
|      | Ⅲ  |     | 面積（数Ⅱ）         | 標準  |
|      | Ⅳ  |     | 場合の数（数A）       | 標準  |
|      | V  |     | 複素数平面（数C）      | やや易 |
|      | Ⅵ  |     | 因数分解（数Ⅰ）       | 標準  |
|      | Ⅶ  |     | 部分積分（数Ⅲ）       | やや難 |

### ●出題範囲と出題内容

#### a. 出題範囲

数学ⅠⅡⅢABCの全範囲である。

#### b. 出題内容

数学ⅠⅡⅢABCのあらゆる分野から出題されている。

### ●問題形式

2/2、2/3の大問1と2/5のすべての問題は、正しい数字をマークするマークシート形式である。また、その他の問題は記述式で、白紙の解答用紙に解答を書き上げていく形式である。

### ●難易度

多くの問題は標準的な難易度だが、教科書の章末問題のようなやや難易度が高い問題も出題されている。

## 【学習アドバイス】

### ●基礎固めと計算力の向上

数学の試験では、計算ミスを減らし正確な答えを導き出すことが重要だ。

そのためには、まず基礎の徹底から始めよう。公式や定理を単に暗記するのではなく、それらの成り立ちや意味を理解することがポイントだ。例えば、三角関数の公式を覚える際は図を活用して角度と比率の関係を視覚的に捉えるとより深く理解できる。

### ●過去問題演習と試験対策

過去問題を活用して試験の出題傾向を分析しよう。

単に答えを出すだけでなく「どの解法が最も効率的か」を考えながら取り組むことがポイントだ。また、間違えた問題は解答をじっくり確認し、どこで誤ったのかを分析すると良い。解法のプロセスを深く理解することで、類似問題にも対応できる応用力が身につく。

### ●応用力を鍛える

数学の試験では基本的な知識を組み合わせることで解く問題が多く出題されるため、応用力を養うことが重要だ。例えば関数の問題では、微分・積分の知識を活用した問題や、図形と関連づけた問題がある。その為、異なる分野を関連づけて考える練習をしておくことが本番の試験で柔軟に対応できる。

## 数学①

### 【出題傾向】

| 入試日程                         | 大問  | 出題分野・テーマ                   | 難易度 |
|------------------------------|-----|----------------------------|-----|
| 2/2<br>・経営情報<br>・国際関係<br>・人文 | I   | (1) 数学 I 数と式 (式の値)         | 標準  |
|                              |     | (2) 数学 I 2次関数 (2次関数の最大値)   | 標準  |
|                              |     | (3) 数学 I 集合と命題 (命題の真偽判定)   | 標準  |
|                              |     | (4) 数学 I データの分析 (データの代表値)  | やや易 |
|                              |     | (5) 数学 A 確率 (確率と期待値)       | 標準  |
|                              | II  | 数学 I 2次関数 (2次関数の最大値最小値)    | 標準  |
|                              | III | 数学 I 図形と計量 (三角比と図形の面積の最小値) | 標準  |

| 入試日程                         | 大問  | 出題分野・テーマ                    | 難易度 |
|------------------------------|-----|-----------------------------|-----|
| 2/3<br>・経営情報<br>・国際関係<br>・人文 | I   | (1) 数学 I 数と式 (循環小数の分数への変換)  | やや易 |
|                              |     | (2) 数学 I 2次関数 (3点を通る放物線)    | 標準  |
|                              |     | (3) 数学 I 数と式 (1次不等式の文章題)    | 標準  |
|                              |     | (4) 数学 A 確率 (期待値)           | 標準  |
|                              |     | (5) 数学 I 図形と計量 (余弦定理)       | 標準  |
|                              | II  | 数学 A 確率 (反復試行、期待値)          | 標準  |
|                              | III | 数学 I 集合と命題 (命題の真偽判定)        | 標準  |
| 2/5                          | 1   | 数学 I 2次関数 (2次方程式の実数解条件)     | 標準  |
|                              | 2   | 数学 I 数と式 (絶対値を含む1次方程式)      | やや易 |
|                              | 3   | 数学 A 場合の数と確率 (集合の要素の個数)     | やや易 |
|                              | 4   | 数学 I 2次関数 (放物線の頂点の座標)       | やや易 |
|                              | 5   | 数学 A 図形の性質 (三角形の内心と線分の長さの比) | 標準  |
|                              | 6   | 数学 I 集合と命題 (必要条件・十分条件)      | 標準  |
|                              | 7   | 数学 I 図形と計量 (四面体の体積)         | 標準  |
|                              | 8   | 数学 A 場合の数と確率 (確率)           | 標準  |
|                              | 9   | 数学 I データの分析 (平均値、分散)        | やや易 |

マークシート方式の問題と記述解答を求める問題が出題されている。出題内容は数学 I 数学 A のほぼすべての単元 (数と式・2次関数・集合と命題・三角比と図形の計量・データの分析・場合の数と確率・図形の性質) からまんべんなく出題されており、試験時間は60分である。

## 【学習アドバイス】

### ●合格への近道は基礎の徹底

数学 I 数学 A の試験問題は各分野から偏りなく出題されていて、学校で学んだ内容がきちんと身についているかをストレートに問うものが多い。したがって、まずは教科書を丁寧に読み込み、基本的な事項をしっかりと理解することが肝心だ。公式は暗記するだけでなく、その成立の背景や具体的な使い方を教科書の練習問題を通して習得しよう。高度な問題集に取り組む必要はなく、教科書の章末問題や傍用問題集をしっかりと演習することで十分に合格点を獲得できる。演習の際には一度解いた問題の解法パターンを確実に記憶しておこう。そして、間違えた問題については、なぜその解法を用いるのかを考えながら繰り返し解き直すことが重要だ。

### ●頻出問題に慣れる

数学 I 数学 A では、様々な分野からまんべんなく出題されるが、とりわけ2次関数、三角比を用いた図形の計量、データの分析は出題頻度が高い。その為、これらの分野は重点的に演習を積んでおこう。

●ミスに注意し計算の工夫を身につけよう

マークシート形式の問題では、わずかなミスが大きく失点に繋がるため、日頃より正確かつミスをしない計算を徹底することが重要である。自身の誤答の傾向を把握し、間違いやすい点を意識しながら演習に励むことにしよう。また、計算を効率よく行うことでミスを減らし、解答時間の短縮を目指すべきである。演習後には、自身の解答手順や計算方法と模範解答の流れを比較検討し、より効率的な解答方法を確認することが望ましい。

## 数学①

### 【出題傾向】

| 入試日程                            | 問題  | 出題分野・テーマ                    | 難易度 |
|---------------------------------|-----|-----------------------------|-----|
| 2/2<br>・応用生物<br>・生命健康科<br>・現代教育 | I   | (1) 数学 I 数と式（根号を含む式の計算）     | やや易 |
|                                 |     | (2) 数学 A 場合の数と確率（集合の要素の個数）  | やや易 |
|                                 |     | (3) 数学 I 2次関数（2次関数のグラフ）     | やや易 |
|                                 |     | (4) 数学 I 図形と計量（三角形の面積、角の最大） | 標準  |
|                                 |     | (5) 数学 I 2次関数（2次関数のグラフ）     | 標準  |
|                                 | II  | 数学 I 2次関数（2次関数の最大・最小、合成）    | やや難 |
|                                 | III | 数学 A 場合の数と確率（組合せ）           | やや難 |
| 2/3<br>・応用生物<br>・生命健康科<br>・現代教育 | I   | (1) 数学 I 数と式（根号を含む式の計算）     | 易   |
|                                 |     | (2) 数学 I 数と式（式の計算）          | 標準  |
|                                 |     | (3) 数学 I 集合と命題（集合）          | 標準  |
|                                 |     | (4) 数学 I 2次関数（2次関数の最大・最小）   | 標準  |
|                                 |     | (5) 数学 I データの分析（分散、共分散）     | やや易 |
|                                 | II  | 数学 I 図形と計量（三角形の内接円、外接円の半径）  | 標準  |
|                                 | III | 数学 A 場合の数と確率（確率）            | 標準  |
| 2/5                             | 1   | 数学 I 2次関数（2次方程式の実数解条件）      | 標準  |
|                                 | 2   | 数学 I 数と式（絶対値を含む1次方程式）       | やや易 |
|                                 | 3   | 数学 A 場合の数と確率（集合の要素の個数）      | やや易 |
|                                 | 4   | 数学 I 2次関数（放物線の頂点の座標）        | やや易 |
|                                 | 5   | 数学 A 図形の性質（三角形の内心と線分の長さの比）  | 標準  |
|                                 | 6   | 数学 I 集合と命題（必要条件・十分条件）       | 標準  |
|                                 | 7   | 数学 I 図形と計量（四面体の体積）          | 標準  |
|                                 | 8   | 数学 A 場合の数と確率（確率）            | 標準  |
|                                 | 9   | 数学 I データの分析（平均値、分散）         | やや易 |

●出題形式

2/2と2/3は大問 I が小問集合のマークシート方式で、大問 II

と大問Ⅲは記述式である。2/5はすべての問題が小問のマークシート方式である。

#### ●出題範囲と出題内容

表にあるように、数学Ⅰの全範囲と、数学Aの「場合の数と確率」、「図形の性質」が主な出題範囲である。

出題内容は多岐にわたっているが、数と式の計算、2次関数のグラフと最大・最小、図形の計量、データの平均値と分散、確率などが中心になっている。

#### ●難易度

教科書で扱われている標準的な難易度の問題が多いが、複数の事項を組み合わせるなど応用力が必要な問題も含まれている。

### 【学習アドバイス】

#### ●教科書の内容を正確に理解しておこう。

教科書の練習問題や章末問題が解けるようになっただけでは、同じ形式の問題は解けても入試問題に対処するには不十分である。教科書本文の内容をしっかりと理解できるまで読み込んで、他の人にも論理立って説明できるように頭の中に整理して入れておけば、新しい形式の問題に出会っても対処できる応用力が身に付く。

#### ●問題集で練習するときには、自分の頭で考えながら解くことに重点をおくよう意識しよう。

公式に当てはめて解くことで問題数をこなすより、1つの問題を教科書の内容に戻って自分で考えながら解き進める方がよい。そのような練習の積み重ねによって、どんな問題にも対処できる応用力を身に付けることを目指そう。

#### ●記述式問題の練習も大切に。

記述式問題の答案では、説明は簡潔にしつつ、論理がつながるような書き方が求められる。すぐに出来ることではないので、自分の作った答案を読み返し、筋の通った解答に仕上げる練習を繰り返そう。

## 英 語

### 【出題傾向】

| 入試日程 | 大問  | 出題分野・テーマ                      | 難易度 |
|------|-----|-------------------------------|-----|
| 2/2  | [1] | 長文「塗料の歴史」(内容把握、同意語句、表題)       | 標準  |
|      | [2] | 文法(空所補充)                      | 標準  |
|      | [3] | 会話文(空所補充)                     | 標準  |
|      | [4] | 語彙(同意語句選択)                    | 標準  |
|      | [5] | 並べ替え                          | 標準  |
| 2/3  | [1] | 長文「スマホ利用の危険性」(内容把握、同意語句、表題)   | やや難 |
|      | [2] | 文法(空所補充)                      | 標準  |
|      | [3] | 会話文(空所補充)                     | 標準  |
|      | [4] | 語彙(同意語句選択)                    | 標準  |
|      | [5] | 並べ替え                          | 標準  |
| 2/5  | [1] | 長文「アカギツネの生態と逸話」(内容把握、同意語句、表題) | 標準  |
|      | [2] | 文法(空所補充)                      | 標準  |
|      | [3] | 会話文(空所補充)                     | 標準  |
|      | [4] | 語彙(同意語句選択)                    | 標準  |
|      | [5] | 並べ替え                          | 標準  |

#### ●出題形式

いずれの日程も大問数は5題で解答数は40である。全問、選択肢から正答を選ぶマークシート方式である。大問は、長文読解・文法・会話文・語彙・並べ替えの順序で出題されている。

#### ●問題の傾向

[1]の長文は550語～600語の長さでまとまりのある読みやすい内容ではあるが、馴染みのない語句があっても日本語の注は付いていない。設問は文章の流れに沿って順序よく出題されているので、文脈を追いながら一つ一つの設問に答えていくのが良い。[2]は標準的な文法問題が10題出題されている。[3]では9～11行程度の長さの会話を読んで、5つの空所に入る適当な語句や文を10の解答群から選ぶ。これが2題出題される。[4]では英文中の語句(イディオムなど)に下線が引かれ、その意味・言い換えが問われる。[5]の並べ替えには日本語訳が付いていない。5つの空所に入る選択肢を正しい英文となるよう並べ替え、そのうち2カ所の空欄に入る語(句)の組み合わせを与えられた解答群から選ぶという形式になっている。

#### ●難易度

[1]の長文問題はほぼ標準的な難易度であると言える。文章の内容も具体的で分かりやすい。各設問の選択肢は正解以外

の選択肢が正解から大きく外されているので、本文を読んでいく中で分からないところがあっても、文脈から意味を理解しよう心掛け、粘り強く取り組みたい。〔2〕の文法問題は概ね高校の授業や参考書で学ぶポイントに沿って出題されており、標準的な難易度である。〔3〕の会話文問題は二つの短い日常会話の空所を埋める形式だが、空欄になっている部分は独立した文は少なく、文章の一部が抜けている場合が多い。会話の流れで正解が決まるだけでなく語と語の繋がりなどをヒントにできるので、取り組みやすい問題だと言える。〔4〕の語彙問題は頻出のイディオムやその他の表現の意味を問う、標準的な難易度の問題である。〔5〕の並べ替えも特に難問にしようとする意図は見られず、素直に英語の理屈に沿って理解できる英文を作れば良い。

## 【学習アドバイス】

### ●語彙力の強化

英語の長文を正確に読みこなすためには語彙力が必要なのは言うまでもない。また、語彙力そのものを問う大問もある。従って普段から少しずつ単語や連語を覚えていくことが大切だ。単語や連語は、それが使用されている文と共に覚えることが肝心だ。例えば、英語コミュニケーションの教科書や長文問題集に取り組む際に、知らない単語が使われている文を見たらすぐに辞書に頼るのではなく、その文を何度も音読して自分でその単語の意味を考えてみる。そして、それから辞書を引こう。また今の時代なら、AIを使って英語を英語で言い換えることを学ぶことも可能だ。英英辞典を使うことも含め様々な工夫を試してみよう。

### ●読解力の強化

長文を読むには語彙力の強化が必須であるが、単語をたくさん知ってさえいれば長文が読めるわけではない。文法・語法そして構文の知識と運用力が、語彙力と結びついてはじめて英文が読めるようになる。それでも理解できない英文に突き当たった場合には「文脈」を把握しようと何回も読み直すことが必要だ。普段から段落ごとに、その主題（メインアイデア：段落の第1文に書かれていることが多い）を把握しながら読んでいき、前後の段落とのつながり（論理展開）を意識する読み方を心がけよう。これは長文問題のみならず、会話文問題を解く上でも有効だ。会話文問題も実質的には読解問題だからだ。発言の相互のつながりという「文脈」を追う「読解力」が正答を得るカギである。

### ●1冊の頻出問題集を最後まで、そして何度でも取り組む

文法と語彙の問題は標準レベルとは言え、何の対策もしなけ

れば高得点に至ることはできない。定評のある「頻出問題集」を最後までやり切り、苦手な箇所は何度も解き直すことを勧める。手持ちの頻出問題集を何回もしっかりとやり通すこと。

### ●過去問研究は重要

「過去問」に取り組む目的は、問題の傾向を知ることに限らない。もちろんそれが一番大事だが、加えて、どの問題から解いていくのか、時間配分はどうするかなどの計画を立てることも過去問研究の重要な目的だ。どの日程も最初に長文読解が始まるがこれから解いていく必要はない。自分に合った取り組み方を見つけてほしい。

## 物 理

### 【出題傾向】

| 入試日程 | 設問  | 出題分野・テーマ                              | 難易度 |
|------|-----|---------------------------------------|-----|
| 2/2  | I   | ばねから射出された物体と衝突した物体の粗い斜面での運動           | 標準  |
|      | II  | 交流電源と抵抗、コンデンサー、コイルからなる回路              | やや難 |
|      | III | 音波のドップラー効果                            | 標準  |
| 2/3  | I   | 粗い斜面上に置かれた直方体の静止条件                    | 標準  |
|      | II  | 直線導体とソレノイドを流れる電流が作る磁場                 | 標準  |
|      | III | $p$ - $T$ グラフと熱力学の第一法則                | 標準  |
| 2/5  | I   | 粗い斜面上で静止する糸巻き滑らかな水平面に置かれた台に飛び乗る小物体の運動 | 標準  |
|      | II  | 内部抵抗をもつ直流電源と可変抵抗からなる回路                | 標準  |
|      | III | 弦の共鳴とうなり                              | やや易 |

### ●出題形式

いずれの日程も大問が3題（解答数は35前後）で、解答形式は解答群から正答を選ぶマークシート方式である。

### ●出題範囲と出題内容

#### a. 出題範囲

物理基礎および物理の全範囲

#### b. 出題内容

力学、電磁気学、熱力学、波動における主要なテーマを取り上げて、様々な現象を数学的に解析できる力を持っているかを見る内容になっている。

### ●問題の傾向と難易度

「力学」 運動方程式や力学的エネルギー保存の法則および運動量の保存の法則を柱にした質点の運動と、剛体の転倒と滑りを考えた静止条件について、正確な状況把握と緻密な分析を必要とするややレベルの高い問題になっている。

「電磁気学」 電池の内部抵抗を考慮する直流回路、3つの素子を含む交流回路、電流が作る磁場に関する基本法則を十分に理解しているかを問うものになっている。

「熱力学」 熱力学の第一法則が理解できていれば対応できる代表的な問題であるが、 $p$ - $V$ グラフではなく $p$ - $T$ グラフを与えることによって臨機応変に対応する力と柔軟性を問う内容になっている。

「波動」 弦の共鳴については基本の理解を、ドップラー効果については単に公式の暗記を求めるのではなく、その導出過程も理解しているかを問う内容になっている。

## 【学習アドバイス】

### ●教科書をよく読んで現象を説明する法則を理解しよう

物理の問題を考えるときにまず求められることは、与えられた状況や現象に対してどのような法則が成立しているかを見抜くことである。そのためには、法則を単なる文字列として暗記するのではなく、それが述べている内容を理解した上で覚えておかなければならない。可能であれば、式を言葉で表現してみるのも良いだろう。暗記した式に当てはめるとのことと、法則を使うということとは全く別の話であることを知っておくべきである。

確かに、高校で学習する数学だけでは理解できない理論も多いが、教科書では高校生にもできるだけ内容がよく分かるように工夫された説明がなされている。その説明で現れるいくつもの式については、次のことに注意して頭に入れていくことが大事である。

- ・物理量の定義を与えている式なのか、物理量を用いて法則を述べている式なのか
- ・理論の核となる法則を表す式なのか、それを変形して得られた式なのか

このような学習の仕方によって、式が持つ意味や重要度の違いがはっきり分かり、複雑で難解に感じられる内容も整理された形、すなわち理論として系統的に頭に入っていくのである。物理は法則によってすべての現象を明確に説明できる体系を持っていることに気が付いてほしい。

### ●問題演習を十分に行おう

一般性をもった法則を、具体的な個々の現象に対して正しく

適用するのはなかなか難しいものである。一方、いかに複雑な状況を扱った問題であっても、必ず教科書で学ぶ内容で解決できるのである。

そこで、いろいろな問題に当たって法則や公式を実際に使ってみることが必要となる。演習に用いる問題は、次のように使い分けてレベルアップを図ると良いだろう。

・教科書の問題

物理量の定義の確認と暗記をした上で、単純化された状況で法則の基本的な使い方を習得する。

・問題集（学校で使っているものを中心に標準レベルのもの）

基礎を固め、各分野の典型的な問題や入試頻出問題を確実に解けるようにする。さらに、融合問題にも挑戦して、状況に対する細かい分析力とそれに対応できる応用力を身に付けると良い。

また、煩雑な計算でも手際よく処理できるようにしておくことが大事である。

・過去に出題された問題

正解率や所要時間から、求められているレベルの学力に達しているかを知ることができるので、学習計画を立てる上で役に立つだろう。また、来年の傾向を具体的に予想することはできないが、出題のされ方、例えば、どのような題材で何が問われているか、やや難しい問題に対してはヒントや誘導がどのように与えられているか、なども見ておくと良いだろう。

## 化 学

### 【出題傾向】

| 入試日程 | 設問  | 出題分野・テーマ                                                                                                                                                 | 難易度 |
|------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 2/2  | I   | (1) 混合気体（メタンとプロパン）の燃焼問題。<br>(2) イオン定性分析（ $\text{Ag}^+$ 、 $\text{Ca}^{2+}$ 、 $\text{Cu}^{2+}$ 、 $\text{Fe}^{3+}$ 、 $\text{Pb}^{2+}$ 、 $\text{Zn}^{2+}$ ）。 | 標準  |
|      | II  | (1) 酸化還元反応（ $(\text{COOH})_{2\text{aq}}$ による $\text{KMnO}_{4\text{aq}}$ の滴定）。<br>(2) 酢酸水溶液の電離平衡問題。電離度、水素イオン濃度、pHを求める内容。                                  | 標準  |
|      | III | $\text{N}_2\text{O}_4$ と $\text{NO}_2$ の化学平衡。平衡定数の算出と平衡の移動。 $\text{NO}_2$ の発生法と気体の性質。                                                                    | やや難 |
|      | IV  | (1) 芳香族化合物 $\text{C}_8\text{H}_{10}\text{O}$ の異性体とその性質。<br>(2) 合成高分子（ビニロン、ポリエチレンテレフタレート）の性質と製法。                                                          | 標準  |

| 入試日程 | 設問  | 出題分野・テーマ                                                                               | 難易度       |
|------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 2/3  | I   | 周期表(1族～18族)の各族の元素の性質。                                                                  | 標準        |
|      | II  | (1) 中和滴定実験器具の取り扱い。<br>(2) 標準溶液(シュウ酸水溶液)の調製。<br>(3) 酢酸水溶液の濃度決定。<br>(4) 水溶液の液性と指示薬の色の変化。 | やや難       |
|      | III | (1) 化学反応の進行とエネルギー変化。<br>(2) 温度変化と平衡の移動。<br>(3) 気体の製法と性質。Ca化合物の反応。                      | 標準        |
|      | IV  | (1) 炭化水素の分類と化学的性質。<br>(2) $C_4H_8$ の異性体数。<br>(3) エステル $C_4H_8O_2$ の構造決定。               | 標準        |
| 2/5  | I   | 電子配置と周期表。                                                                              | 標準        |
|      | II  | (1) イオン結晶の構造と性質。<br>(2) 金属結晶(Mg)とイオン結晶(MgO)の性質。                                        | 標準        |
|      | III | (1) プロパンの燃焼と水蒸気圧。混合気体の圧力。<br>(2) イオン定性分析( $Cu^{2+}$ 、 $Fe^{3+}$ 、 $Zn^{2+}$ )。         | やや難<br>標準 |
|      | IV  | 有機化学(石ケンの製法と性質・合成洗剤の特徴)。                                                               | 標準        |

### ●出題形式

大問数は4、解答数は32～33でほぼ一定。出題形式はすべてマークセンス方式。

### ●出題範囲と出題内容

#### a. 出題範囲

「化学基礎」と「化学」の全範囲。

#### b. 出題内容

「化学基礎」と「化学」の広範囲から偏りなく出題されている。具体的には、次のような範囲の問題が例年出題されている。

- ・「化学基礎」からは、原子の構造、電子配置、元素の周期性、化学結合、物質量と化学反応式、酸と塩基、酸化還元、金属のイオン化傾向、電気分解、金属の製錬。
- ・「化学」からは気体の性質、固体の構造(結晶構造)、溶液の性質、弱酸の電離度とpH、電離定数、金属イオンの定性分析、有機化合物の構造決定とその化学的性質、高分子化合物(合成繊維と合成樹脂)。

### ●問題の傾向

解答群の中から正答を選ぶマークセンス方式であるが、「正しいものの組み合わせを選ぶ」や「該当するものをすべて選ぶ」といった問題が見受けられ、見落としが無いよう注意が必要だ。

### ●難易度

設問の多くは教科書に記載されている基本的な内容である

が、組み合わせ問題として出題されることもあり、難易度は標準だが、あやふやな知識では得点につながらないものもある。また、計算を必要とする問題では内容的には標準レベルだが、フッ化カルシウムの結晶構造など時々や難しい問題も出題されるので、できるだけ教科書の「参考」や「発展」の欄にも目を通しておきたい。

## 【学習アドバイス】

### ●教科書は何度でも読み返そう

教科書に書いてあること以外は出題されない。教科書は分かりやすく纏められており、資料や図、写真も適切なものが掲載されているのでしっかり活用しよう。最低でも三度は最初から最後まで読み返すのが良い。最初は速読で小説を読むように、原子から高分子までの物質の成り立ちから仕組みを、物語を読むように読み進んでみよう。物質の流れをつかんだら二度目は初めからじっくりと熟読しよう。図や表にも目をやり例題も解いていこう。三度目はまた速読で、原子から高分子までの物質の歴史を確認しよう。これを1セットとして入試までに3回繰り返そう。

### ●教科書傍用の問題集で練習を繰り返そう

授業で使われている教科書傍用の問題集は難易度も問題量も適切なので、自習用にも向いている。気体の性質や化学平衡、電離平衡など難しい分野の問題は、確認問題から標準問題まで何度でもじっくりと解いていこう。分からなくなったら教科書に戻り、該当箇所を読み直そう。全く解けないような問題は出題されない。

### ●過去問で時間配分や問題の解答手順の対策をしておこう

試験が近づいてきたら、時間配分に留意し、過去問を使って時間内にはば解けるように練習しよう。まずは全問にざっと目を通し、易しそうでできそうな問題から解いていこう。そうして何問か解ければ焦らずに残りの問題も解いていける。見直しの時間が取れるようなペースを試験前までに掴んでおこう。

# 生 物

## 【出題傾向】

| 入試日程 | 大問  | 出題分野・テーマ                                                 | 難易度 |
|------|-----|----------------------------------------------------------|-----|
| 2/2  | I   | A 生物の多様性と共通性、生物の起源と生物の進化<br>B エネルギーと代謝（酵素）               | やや易 |
|      | II  | A 遺伝子の発現（だ腺染色体での遺伝子発現）<br>B 遺伝子の発現（分化した細胞の遺伝子発現）         | やや易 |
|      | III | A 体内環境を調節するしくみ（腎臓）<br>B 体内環境を調節するしくみ（肝臓）                 | 標準  |
|      | IV  | A 免疫（獲得免疫、免疫と医療）<br>B 免疫（花粉症、アレルギー、自己免疫疾患）               | 標準  |
|      | V   | A 植生の分布とバイオーム（世界のバイオーム）<br>B 生態系のバランスと保全（生態系の保全の重要性）     | やや易 |
| 2/3  | I   | 生物の特徴（顕微鏡観察、マイクロメーター、生物の多様性と共通性、エネルギーと代謝）                | 標準  |
|      | II  | A 遺伝子とDNA（遺伝情報の分配と発現、DNAの構造）<br>B 遺伝子の発現（分化した細胞の遺伝子発現）   | 標準  |
|      | III | A 体内環境の維持（心臓の構造、恒常性と神経系）<br>B 体内環境を調節するしくみ（内分泌系）         | やや易 |
|      | IV  | A 免疫（自然免疫、獲得免疫）<br>B 免疫（エイズ、アレルギー、自己免疫疾患）                | 標準  |
|      | V   | A 植生の分布とバイオーム（バイオーム、生態系の保全）<br>B 生態系のバランスと保全（生態系の保全の重要性） | 標準  |
| 2/5  | I   | A 呼吸と光合成（光合成）<br>B エネルギーと代謝（酵素）                          | 標準  |
|      | II  | 遺伝情報の複製と分配（DNAの構造と発現、体細胞分裂）                              | 標準  |
|      | III | A 体内での情報伝達と調節（恒常性と神経系）<br>B 体内環境を調節するしくみ（体温調節）           | やや易 |
|      | IV  | A 免疫（免疫に関わる細胞）<br>B 免疫（獲得免疫）                             | 標準  |
|      | V   | A 生態系のバランスと保全（生態系の保全、外来生物）<br>B 植生と遷移（植生の遷移）             | 標準  |

### ●出題形式

いずれの日程でも試験時間は60分、大問数は5題、解答数は40である。出題形式はマークセンス方式で、生物用語の組み合わせや適切な文章の選択などが出題される。解答群から正答をすべて選ぶ設問や、正しいものを過不足なく含む組み合わせを選択肢から選ぶ設問もある。

### ●出題範囲と出題内容

出題範囲は「生物基礎」であり、生物基礎の全範囲から出題される。大問Ⅰは教科書の第1編第1章「生物の特徴」から、大問Ⅱは教科書の第1編第2章（東京書籍では第2編）「遺伝子とそのはたらき」から、ⅢとⅣは第2編（東京書籍では第3編）「ヒトのからだの調節（数研出版ではヒトの体内環境の維持）」から、Ⅴは第3編（東京書籍では第4編）「生物の多様性と生態系」から出題される。

実験考察問題や計算問題も出題されるが、教科書の範囲を逸脱するような難問は出題されない。ただし、教科書で「発展」として扱われている内容からの出題がある。

### ●問題の傾向

マークセンス方式での出題形式だが、「解答群からすべて選べ」や「語句として正しいものの組み合わせを選べ」、「次の記述のうち、正しいものを過不足なく含む組み合わせを選択肢から選べ」といった形式の設問が多い。これらの設問は、すべての用語・記述の正誤判定ができなければ正答を得られないため、広範囲にわたり正確な知識が必要となる。

### ●難易度

設問の多くは基本的な用語や記述の選択であるが、「発展」として扱われている内容からの出題も見られるため、一般的な生物基礎範囲の入試と比べると難易度はやや高い。「発展」の内容は、高校の生物基礎の授業では学習しないことが多いので、受験する際には「発展」に含まれる高校での授業内容よりも深い学習と理解が必要となることに注意しなければならない。

## 【学習アドバイス】

### ●教科書傍用問題集および市販の「生物」の問題集を活用しよう

出題は、教科書に記載の範囲内に限定されているので、教科書傍用問題集での演習が受験対策として有効であろう。「生物基礎」の教科書傍用問題集を解き、教科書の太字になっている用語のような重要語句に加え、図やグラフなども知識として身につけるような、複合的な学習が望ましい。同じ問題集を3回程度は繰り返し演習し、知識を確実に定着させることが重要であ

る。

なお、一般に生物基礎の問題集では「発展」の問題は含まれていないことが多いので、「生物基礎」の問題集に加えて「生物」の問題集も用意し、教科書を確認しながら「発展」の該当箇所にあたる問題を演習しておくことが望ましい。ただし、難度の高い問題や実験問題までこなす必要はない。

少ないながら計算問題も出題されていたので、計算問題を苦手にする受験生は典型的な計算問題だけでも練習を重ねておくべきだろう。

### ●教科書の内容を徹底的に理解しよう

基本的な問題もあるものの、複数の用語の組み合わせの選択問題や文章選択問題などが出題される。「正しいものをすべて選べ」といった形式の設問で解を導く場合、記載された用語の意味だけではなく、生命現象のしくみを理解しておく必要がある。問題集などを用いて演習を行った後、理解が不十分であった項目は、教科書の該当箇所をしっかりと確認してほしい。

教科書などでは重要事項が図で説明されているものが多い。用語とともに図そのもの（グラフであれば、縦軸や横軸の数値なども含めた全体）を覚えてしまうことが、しくみ自体を理解する近道になる。実験問題の内容もほとんどの教科書で示されているものであるため、実験に関する用語や生物名、実験手順、実験の目的などを学習しておこう。

## 国 語

### 【出題傾向】

| 入試日程 | 大問  | 出典・設問内容                                               | 難易度 |
|------|-----|-------------------------------------------------------|-----|
| 2/2  | 第一問 | 津田正太郎『ネットはなぜいつも揉めているのか』（評論）：語句の補充問題、語句の意味、言い換え、本文趣旨把握 | 標準  |
|      | 第二問 | 牟田和恵『「良妻賢母」思想の表裏』（評論）：漢字問題、語句の意味、空欄補充、傍線部の意味、本文趣旨把握   | 標準  |
|      | 第三問 | 森田良行『日本語をみがく小辞典』：文学史、類義語、文法、漢字問題、部首名、比喩 *記述式          | 標準  |

| 入試日程 | 大問  | 出典・設問内容                                                   | 難易度 |
|------|-----|-----------------------------------------------------------|-----|
| 2/3  | 第一問 | 山本孝文『文房具の考古学』（評論）：漢字問題、語句の意味、空欄補充、理由説明、本文趣旨把握             | 標準  |
|      | 第二問 | 榎木野衣『パンデミックとアート』（評論）：語句の意味、漢字問題、空欄補充、心情把握、傍線部の意味、指示語、理由説明 | 標準  |
|      | 第三問 | 森田良行『日本語をみがく小辞典』：文学史、空欄補充、文法、漢字問題、仮名遣い、指示内容 *記述式          | 標準  |
| 2/5  | 第一問 | 岡田尊司『愛着障害』（評論）：漢字問題、語句の意味、空欄補充、指示内容、文学史、傍線部の意味、本文趣旨把握     | 標準  |
|      | 第二問 | 阿部公彦『事務に踊る人々』（評論）：漢字問題、空欄補充、内容識別、漢字の読み、本文趣旨把握             | 標準  |
|      | 第三問 | 国語常識問題：漢字問題、文学史（季語）、四字熟語                                  | 標準  |

### ●出題形式

例年通りいずれの日程も大問の数は3題で、解答数は33～34。原則として与えられた5つの選択肢の中から選ぶマーク式だが、日程によっては第3問が記述式になっている。

### ●出題範囲と出題内容

- 出題範囲：現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く）、論理国語
- 出題内容：大問2つはいずれも評論だが、一方は論旨を問うやや硬い内容の社会科学系の評論、他方は語彙力・国語常識を中心に問う随筆に近い評論という組み合わせ（本文の文字数は原則的には3000字程度）である。第3問は本文がある場合も、設問のみの場合もあるが、いずれも、文学史、慣用句、文法、漢字問題などの国語常識を問うている。

### ●問題の分析

全体的には広く国語全般に関する知識、語彙力を問う問題が多い。具体的には、二字の熟語の一方をカタカナにして、その字と同じ字を選択肢から選ばせる漢字問題、二字熟語・四字熟語・慣用表現・ことわざ等に関する空欄補充問題、傍線部の語の意味や類義語を問う問題、文学史や文法に関する問題などである。

このほか内容に関する設問としては、前後の文脈を踏まえて脱落した句や文を補充する問題、傍線部の本文での意味や理由を問う問題、全体の趣旨を問う問題、内容合致問題などが出題されている。内容合致問題では「合致しないものを選ぶ」という形式もあるので注意を要する。

### ●難易度

本文（素材文）のテーマ・内容は比較的平易なものであり、各設問の立て方も標準的なもので、それぞれの選択肢も分かりやすい文章で理解しやすく、全体的に「標準」と言って良い。2/5の第1問は、本文が4000字ほどあって長文であるが、国語常識に関する問いが多く内容に関する設問は少ないので、やはり「標準」となる。第3問の語彙力を中心とする国語常識問題も、難問はほとんど見られずこれも「標準」と言えよう。

## 【学習アドバイス】

### ●まず、過去問題を！

年度や日程の違いに関係なく入試問題の形式が統一されている為、その対策は何よりもまず過去問題を実際に解いてみることだ。そうすれば語彙力を問う空欄補充の問題が多いこと、類義語や文学史の知識を問う問題がよく見られることなどを実感できるに違いない。また、年度や日程の違いによっては小説も出題されるが、その場合も国語常識や語彙力を問う問題が中心であることが分かるはずだ。

### ●語彙力を問う問題への対策

語彙力増強を図るには、過去問題（推薦・一般）を解きながら、国語便覧の、例えば「文学史」「接続語とその用法」「漢字の部首」「熟語の構成」「四字熟語とその意味」「体の部分を使った慣用語」「動物を使った慣用語」「日本のことわざ」「故事成語」「文法要覧」などの項目を確認していくと良い。また、ネットの検索機能を使って、類義語や注意すべき外来語などを確認しておくことも有効だろう。例えば二字の熟語の空欄補充問題を解くには、それらの熟語がもつ肯定的（あるいは否定的）ニュアンスなど、頻用される局面も含めて幅広く身につけておくことが前提になるので、この点も意識しながら過去問題を解いていくとより効果的だ。

### ●読解力を問う問題への対策

同じ語句の空欄補充でも、語彙力だけでなく読解力が求められる場合がある。例えば、本文の論理展開に関わる重要な語句や文を空欄にした上で正解を選択肢から選ばせる問題などは、当該箇所前後の文脈の流れを的確に把握する力が求められる。まして、傍線部の内容やその意味、あるいは理由などを問う設問の場合は、十分な読解力が前提となることはいうまでもない。

具体的な対処法としては、まず本文（素材文）の筆者名やタイトルを確認し、繰り返し用いられる用語やセンテンスに囲みや傍線などで印を付けながら、筆者の主張の流れを把握することが必要だ。また、評論では、用語や表現を言い換えながら論

を進めていくので、その展開を具体的に跡づける力が必要とされる。後に繋がる語句やセンテンスが、前の語句やセンテンスの言い換えになっているのか、それとも反対の立場に立っているのかを区別して印を付けながら読むことも効果的だろう。傍線部の内容・理由を問う問題では、このような作業を踏まえた上で傍線部の前後の記述を中心に判断根拠を求め、傍線部との整合性を確認しながら選択肢を吟味すると良いだろう。

### ●本文内容合致問題を克服するには

本文内容合致問題では、選択肢を一つ一つ吟味分析することによって本文に見られない記述、本文の趣旨に矛盾する記述を含む選択肢を消去していく方法を取るのが良いだろう。注意すべきは「本文の内容に合致しないものを選ぶ」という設問もあることだ。その場合は、まず設問の指示が「合致しない」ものを選ぶことを確認した上で、選択肢の中で本文に合致する内容・表現を含んでいるものを確認しながらチェックしていくようにしよう。残ったものが一つになれば、それが正解だが、その選択肢の文のどこが本文の趣旨と一致しないのかを確認するようにしよう。

読解力を高めるには実際の入試問題を数多く解くことが一番だが、素材として用いられる本文の難易度は標準的でありテーマも分かりやすいので、中部大学の過去問題は、語彙力増強はもちろん、読解力向上にも役立つ良問と言える。過去問題を一通り解き終えたら、引き続き市販の標準問題集を解いていくのが良いだろう。

## 世界史

### 【出題傾向】

| 入試日程 | 大問  | 出題分野・テーマ      | 難易度 |
|------|-----|---------------|-----|
| 2/2  | 〔Ⅰ〕 | 第二次世界大戦後の核兵器  | やや難 |
|      | 〔Ⅱ〕 | 神聖ローマ帝国史      | 標準  |
|      | 〔Ⅲ〕 | アメリカ独立戦争      | 標準  |
|      | 〔Ⅳ〕 | 19世紀以降のイスラーム史 | 標準  |
| 2/3  | 〔Ⅰ〕 | 清の外交関係（史料問題）  | 標準  |
|      | 〔Ⅱ〕 | 中世のイベリア半島史    | 標準  |
|      | 〔Ⅲ〕 | 世界恐慌とブロック経済   | 標準  |
|      | 〔Ⅳ〕 | 唐代中国          | 標準  |

| 入試日程 | 大問  | 出題分野・テーマ                                    | 難易度 |
|------|-----|---------------------------------------------|-----|
| 2/5  | 〔Ⅰ〕 | 清の衰退と滅亡（史料問題）                               | 標準  |
|      | 〔Ⅱ〕 | A ハワイにおける気候変動に対する取り組み<br>B ニュージーランドにおける国旗問題 | 標準  |
|      | 〔Ⅲ〕 | 大航海時代と大西洋三角貿易の歴史                            | 標準  |
|      | 〔Ⅳ〕 | 19世紀以降のヨーロッパの都市の歴史                          | 標準  |

### ●出題形式

例年通り、いずれの日程の試験も大問4題、解答数は32であり、いずれも解答をマークするマークシート方式である。

### ●出題範囲と出題内容

#### a. 出題範囲

世界史の全範囲である。

#### b. 出題内容

あらゆる時代・地域から出題されている。

### ●問題の傾向

4つの選択肢から正文を選ぶ問題、4つの選択肢から誤文を選ぶ問題、2つの文の正誤の組み合わせを選ぶ問題、空欄補充などの単答問題、出来事を古いものから新しいものへ配列する問題（整序問題）、地図問題などが出題されている。記述式の問題は出題されない。

時代に関しては、古代・中世・近代・現代からまんべんなく出題されている。ただし、古代史・中世史は少なめで、近代史・現代史が比較的多く、現代史は冷戦期もかなり出題されている。

地域に関しては、西洋史と東洋史のバランスはほぼ半々である。ただし、東アジア・東南アジア史が皆無の日程や、反対に、50%がこの地域であった日程もあった。

### ●難易度

ほとんどの問題が標準レベルであり、教科書レベルで対応できる。しかし、一部の教科書にしか掲載されていない事項も出題されるので、用語集や図版集などでの知識の補充が必要である。4つの選択肢から正文を選ぶ問題、4つの選択肢から誤文を選ぶ問題、2つの文の正誤の組み合わせを選ぶ問題は、単なる人名・用語などの暗記だけでは対応できない。特に2文の正誤の組み合わせを選ぶ問題は、2つの文の正誤が両方とも分からないと答えられないので、正確な知識が求められる。また、おそらく受験生の多くが手薄になる冷戦時代からの出題もあるので、注意が必要である。

## 【学習アドバイス】

### ●教科書の内容を、はじめから最後まで一通り理解すること

教科書を最初から最後まで読み通すことが重要である。例えば古代ギリシアを完全に暗記するまで古代ローマへ進まないというような読み方をすると、冷戦時代まで読み通せない可能性がある。また、学習が進んだ段階で、以前よく分からなかった事項が「そういうことだったのか」と分かるというようなこともあるので（例えば、一条鞭法だけではなく、一条鞭法と地丁銀制を比較して覚えるほうが理解しやすい）、ある程度のことを覚えてたらどんどん次の時代や地域に進むと良い。

### ●年表学習も欠かせない

3つの出来事を時代の古いものから配列する年代整序問題もあるので、年表学習も欠かせない。本来、年表を見て、出来事などの生起順を押さえてから、それぞれの出来事の詳細を押さえるという順を踏むべきであるが、教科書では最後に年表があるので、年表が十分に活用されていないことが多いようである。まずは年表で大まかに出来事の流れを把握するのが良い。その際に同時代のことに意識を向けることも忘れてはならない。そうすれば「14世紀の危機」「17世紀の危機」といった意味がよく分かるはずである。

### ●教科書併用の問題集で演習を繰り返すこと

重要な事項は紙に書いて覚えるのが有効である。マークセンス方式であるので、漢字などを正確に覚える必要はないという考えは誤りで、漢字は目で追うだけでなく紙に書いて正確に覚えよう。

また、理解したつもりがそうでないことが演習をしてはじめて気付くので、演習によって知識の欠落、不正確さ、誤った理解などを発見しよう。

### ●過去問の対策を十分におこなうこと

本番と同じ時間で過去問を解いて、何点取れるかを知り、どこで失点するのかを知ることも必要である。また、正しく答えられた問題でも、確信をもって答えられたのか、何となく正解であったのかの区別も大事だ。また、失点した問題については、知識の欠如が原因なのか、知識の不完全さが原因なのかを考えることも大事だ。過去問が一通り終わったら、標準的な問題集を選んで、ひたすら演習を繰り返そう。

# 日本史

## 【出題傾向】

| 入試日程 | 大問  | 出題分野・テーマ                             | 難易度    |
|------|-----|--------------------------------------|--------|
| 2/2  | 〔Ⅰ〕 | A：壺田永年私財法<br>【A～C史料】 B：半済令<br>C：分国法  | 標準     |
|      | 〔Ⅱ〕 | 近世初期の外交・貿易                           | 標準     |
|      | 〔Ⅲ〕 | 明治期の思想・文学・美術                         | 標準     |
|      | 〔Ⅳ〕 | 昭和初期の経済・外交（金融恐慌・山東出兵）                | 標準     |
| 2/3  | 〔Ⅰ〕 | A：古代の東北政策<br>B：日宋貿易の展開<br>C：蒙古襲来【史料】 | 標準     |
|      | 〔Ⅱ〕 | 近世の儒学                                | 標準     |
|      | 〔Ⅲ〕 | 幕末～明治初期の日米関係                         | 標準     |
|      | 〔Ⅳ〕 | 昭和戦前・戦中期の香港                          | 標準～やや難 |
| 2/5  | 〔Ⅰ〕 | A：古代の（律令）税制<br>B：中世の惣村               | 標準     |
|      | 〔Ⅱ〕 | 近世初期の豊臣政権・江戸幕府と大名                    | 標準     |
|      | 〔Ⅲ〕 | 「超然主義」演説【史料】                         | 標準     |
|      | 〔Ⅳ〕 | 「サンフランシスコ平和条約」【史料】                   | 標準     |

### ●出題形式

各日程とも全問マークシート方式で、設問数は合計32問。問題文中の空欄や下線部に該当する語句を選択、あるいは、設問文に該当する説明文を1つ選ぶ形式の設問で構成されている。

### ●出題範囲

日本史（日本史探究）の全範囲から出題される。

### ●出題内容

古代～近現代の政治・外交・経済を中心に出题され、文化史からの出題も見られる。

### ●問題の傾向

各大問とも、古代～近現代いずれの時代の問題でも基本的な語句を解答する設問が大半を占め、一部の設問は4つの選択肢の文章のうち「最も適当なもの」または「誤っているもの」を選ぶものとなっているが、これも基本的な内容がほとんどである。

各日程につきいずれかの大会で史料が用いられており、これに関連した出題が見られる。また、過去には一部の日程でグラフや絵図も用いた出題も見られた。

各大問の問題文は、その時代全体についてではなく特定の

テーマに沿った内容になっているため、日程によっては全く出題されない時代もある。特に〔Ⅳ〕では昭和戦前期～戦後期に関する出題が続いており、その設問文も他の大問〔Ⅰ〕～〔Ⅲ〕と比べ、高校教科書よりも詳細な内容となっていることが多い。このため、受験生にとっては戸惑いやすくやや難しいとを感じるだろう。

#### ●難易度

大部分の設問が基本的な語句や説明について問うものとなっているため、おおむね標準レベルといえる。ただし〔Ⅳ〕の問題文はやや詳細な内容であることが多く、標準～やや難となる傾向がある。

### 【学習アドバイス】

#### ●まずは教科書をきちんと読もう

出題される日本史の設問には、あからさまにマニアック、重箱の隅をつつくようなものは見られない。ほとんどが基本的な内容であるから、普段から教科書を中心とした学習に励んで欲しい。特に、語句を問う設問の割合が高いため、教科書本文にある太文字の用語はもちろんのこと、それ以外の人名・事件名・法令名・作品名などにも十分に注意しよう。

#### ●基本的な用語を覚えるために

ただ単に教科書を読んでいるだけでは内容が頭に入らないことだろう。特に高校の日本史は中学レベルと比べると格段に用語の数が多くなっているため、高校教科書の内容に対応した空欄補充式の問題集を一冊入手し、教科書を読み進めながら教科書に該当する箇所を問題集で解いていこう。用語は手を動かし書いていくことが覚えるための近道である。

#### ●史料やグラフに注意しよう

史料を用いた出題が見られる為、これに対応するためにも普段から史料集（高校教科書とは別に購入する副教材）も学習に取り入れよう。史料集では、その史料の重要な箇所が赤字もしくは太字で示されているので、その箇所を中心に史料とその現代語訳を必ず読んでおこう。入試で出題される史料の中には初めて見るようなものもあるが、慌てずリード文や設問文をきちんと読んで解答をしよう。

#### ●グラフや絵図、地図にも注意しよう

出題されるグラフや絵図を用いた設問は教科書のグラフを引用している場合が多い。教科書を読み進めながら、途中、グラフや絵図が登場した際には、そのグラフや絵図が何を意味するのかきちんと把握しよう。また、地図を用いた出題は2025年度

入試では見られなかったが、特に経済史や外交史の分野では地名がしばしば登場する。教科書にはその場所を示す地図も掲載されているので、地図で場所も把握する習慣を付けておこう。

### ●年代順に主なできごとを整理しよう

特定のテーマを取り上げた設問が多く出題されているため、受験生にとってはやや難しく感じるかもしれない。こうした特定のテーマを取り上げた問題文をきちんと読みこなせるようになるためにも、普段から、主なできごとを年代順に整理する習慣を身につけておこう。高校教科書には本文の脇に主なできごとをまとめた年表が掲載されているので、積極的に活用し、できごとの発生順が理解できているか確認しよう。

## 地 理

### 【出題傾向】

| 入試日程 | 大問  | 出題分野・テーマ | 難易度 |
|------|-----|----------|-----|
| 2/2  | 〔Ⅰ〕 | 商業と観光    | 標準  |
|      | 〔Ⅱ〕 | 交通       | 標準  |
|      | 〔Ⅲ〕 | 集落       | 標準  |
|      | 〔Ⅳ〕 | 南アメリカ    | 標準  |
| 2/3  | 〔Ⅰ〕 | 日本の自然災害  | 標準  |
|      | 〔Ⅱ〕 | 農林水産業    | 標準  |
|      | 〔Ⅲ〕 | 世界と日本の人口 | 標準  |
|      | 〔Ⅳ〕 | 韓国       | 標準  |
| 2/5  | 〔Ⅰ〕 | アメリカ合衆国  | 標準  |
|      | 〔Ⅱ〕 | 工業       | 標準  |
|      | 〔Ⅲ〕 | 生活文化     | 標準  |
|      | 〔Ⅳ〕 | 南アジア     | 標準  |

### ●出題形式

全問マーク式である。いずれの日程も大問数は4題、解答数は35である。

### ●出題範囲と出題内容

出題範囲は地理の全範囲である。自然環境、資源と産業、人口・都市・生活文化、世界の諸地域などの分野から出題されている。今年度は、地図と地理情報（地形図の読図を含む）の出題がなかったが、過去には出題されている。

### ●問題の傾向

選択肢から正答を選ぶマークシート方式である。選択肢は4

つに固定されている。どの大問もリード文から問いが立てられており、リード文の空欄補充、リード文の下線部に関する設問からなる。語句を選ぶ問題のほか、文の正誤を判断する問題、統計表の国名などを選ぶ問題、語句などの組み合わせを選ぶ問題などの形式で出題されている。

### ●難易度

設問のほとんどは教科書に記載されている事項から出題されている。その意味では基本的な問題であるが、一部には教科書に記載されていない、やや細かい内容が出題されることもある。

## 【学習対策】

### ●教科書の内容を隅々まで理解すること

原則として、どの問題も教科書に書かれていることから出題されている。教科書の本文はもちろん、欄外の注や地図・グラフなども含めて隅々まで目を通して内容を理解しておこう。自分が使っている教科書には記載されていないことから出題される可能性もあるから、用語や地名などは『地理用語集』（山川出版社）を利用するのが効果的であろう。

### ●過去問題を解く

例年同じような形式と難易度で出題されているから、過去問を解いて、どの程度の内容まで勉強すれば良いのかを把握しておこう。特に地形図の読図は、過去にどのような問題が出題されているのかを知っているかどうかでかなり差がつく。これ以外の分野も、過去問題と教科書の記述を比較して、教科書のどの部分が出題されたのかが分かれば、今後の学習目標を立てやすいだろう。

## 政治・経済

### 【出題傾向】

| 入試日程 | 大問  | 出題分野・テーマ        | 難易度 |
|------|-----|-----------------|-----|
| 2/2  | 〔Ⅰ〕 | 政治分野（日本の政党政治）   | 標準  |
|      | 〔Ⅱ〕 | 政治分野（経済的自由権）    | やや難 |
|      | 〔Ⅲ〕 | 経済分野（戦後日本経済の歩み） | 標準  |
|      | 〔Ⅳ〕 | 経済分野（資本主義経済）    | 標準  |
| 2/3  | 〔Ⅰ〕 | 政治分野（日米安全保障体制）  | 標準  |
|      | 〔Ⅱ〕 | 政治分野（日本の選挙制度）   | 標準  |
|      | 〔Ⅲ〕 | 国民生活分野（社会保障制度）  | 標準  |
|      | 〔Ⅳ〕 | 経済分野（市場機構）      | 標準  |

| 入試日程 | 大問  | 出題分野・テーマ      | 難易度 |
|------|-----|---------------|-----|
| 2/5  | 〔Ⅰ〕 | 政治分野（社会権）     | 標準  |
|      | 〔Ⅱ〕 | 政治分野（民主政治と選挙） | 標準  |
|      | 〔Ⅲ〕 | 経済分野（財政）      | やや難 |
|      | 〔Ⅳ〕 | 国際分野（地域的経済統合） | 標準  |

### ●出題形式

例年通りいずれの日程も大問数4題、解答（マーク）数50問であった。解答方式は、全問マークシート方式での四肢択一問題である。いずれの日程も9割程度が語句選択問題で、短文選択問題が数問、他に語句の組み合わせ選択問題や出来事の順の組み合わせ選択問題、計算問題などで構成されている。

### ●出題範囲と出題内容

#### a. 出題範囲

政治・経済の全範囲である。

#### b. 出題内容

政治・経済のあらゆる分野から出題されている。政治、経済分野はもちろん、国民生活・国際の各分野から出題されている。政治分野からは日本国憲法、基本的人権、地方自治、選挙制度や日米安全保障体制、民主政治、政党政治、政治制度などが出題されている。経済分野では、日本経済史、財政、寡占市場や需要供給曲線、資本主義経済などが出題されている。国際分野ではE Uなどの地域的経済統合や為替相場、国際連合などが出題されている。国民生活分野では社会保障制度や労働問題などが出題されている。各日程で必ず政治分野から大問2問が出題されているので、政治分野にやや重きを置いていると思われる。

### ●難易度

ほとんどの設問は教科書の内容に準拠した標準的な問題である。やや難しいと思われたのは2/2の土地収用法に関する問題と、2/5の累進課税制度の計算問題ぐらいであった。これらの問題が解けなくても、多くを占める標準的な問題を確実に正答すれば十分に高得点が目指せる内容である。

## 【学習アドバイス】

### ●教科書の内容を徹底的に理解しよう

政治・経済・国際関係・国民生活の各分野から出題される可能性があるため、すべての分野を学習する必要がある。また、教科書に準拠した標準的な問題が多く出題されるため、まずは教科書の全ての内容をしっかりと理解するようにしよう。そして、学習する際には教科書の重要語句をただ暗記するだけでは

なく、その前後の文脈も理解しながら学習しよう。また、教科書の欄外に示されている語句なども問われることがあるので、見落とさずに学習しておこう。計算問題や図表の読み取り問題にも対処できる学習も必要である。

●用語集や資料集を利用しよう

教科書を学習していて分からない用語や難解な用語が出てきたら、すぐに調べられるように用語集を用意しておくとう便利である。用語集には、『政治・経済用語集』（山川出版社）や『用語集 政治・経済』（清水書院）などがある。また、教科書で学習した事柄について理解を深めるために、資料集なども積極的に活用してほしい。

●問題集や過去問題を解こう

知識を定着させるために多くの演習問題を解いてほしい。教科書の内容を確認できる基礎的な問題集が良いだろう。また、過去問題を解くことで実力を試すことができるとともに、傾向もしっかりと掴むことができる。